

幼児の教育と一錢玩具の話

松 前 福 廣

八

○
安い玩具に就いて何か書けよ云ふ御命令を受取つてから、ペンを取つてみるささうもあちらこちらに支障が出来て少しも書けなくなつてしまひました。それでお許しが出るかさうかわかりませんが、思ふだけのこきを書かしていただくか勝ちに定めて書き出すのですが、さの位皆様の御参考になるか案じて居ります。

二つの「たとへ」話

トルストイは斯う云つた様なこきを云つて居ります。目を持たない國の人達の中へ一頭の象を連れて行つて、象は何ぞやと質問したそうです。その時その中の一人は象は細長い様なものだ云つたそうです。又一人は象は太い管の様なものだ云つたそうです。又他のものは薄いものだ云ひ、廣い壁の様

なものだ云ひ、太い大木の様なものだ云つたさうです。

これは象の尾であり、鼻であり、耳であり、腹部であり、足であつたのでありまして、象全體をまきめて見たものではなかつたのでした。斯うした局部的の見方それ自體が、我々の視野を狭くし、明白なものを不明なものとし易いのではないでせうか。

又矢張トルストイの言ですが、粉屋がよい粉を作るには先づ第一によい水車の事を研究しなければならぬと考へました。それから又よい水車をつくるには動力である水のこきを研究しなければならぬと思つたのです。それからその水も遠くから流れてこなければならぬし、水を流すには溝をつくり、土堤を作らなければならぬから云つて土堤の研究をしたさうです。そこで「よいこな」をつくるに云ふ目的は縁もゆかりもない命題が、研究の對象に置

き換へられたさうです。

さてそこで私達が日常幼児の世界の中で働いてゐる時に、斯うした二つの例に遭遇するやうな場合が数多くありませんでせうか。男の子が喧嘩をした。石をぶつけた。棒切れで打つた云ふやうな日常の一つ一つの現象を見て如何解決をつけられるでせう。細い縄だ云ひ、太い管だ云へ、大木だ云思つて象そのもの、本體をつかまないので、まふこまはないでせうか。

進化して来た我々と我々の成長

私の玩具を申上げる前に私達が知つてゐるこゝででありながら、つい忘れ勝ちである事實から申さしていただきます。即ち「よいこ」をつくる云ふこゝを忘れて土堤や水の研究に落ちぬために。

我々が少くもダウイン以來下等の生物から進化して来た高等の生物である云ふこゝはよく知られてゐるこゝですが、それでゐる忘れられ勝の事柄です。だんく進化發達して来て現在の人間私達迄に進化してきたのだし、これからも進化して行くのだ云ふ事を忘れてしまつて、現在

の人間即ち「我々」が「我々」の世界を作つてゐるのだ云ふ事のみ、先入觀念にさらはれてゐる過ぎる云ふ事です。又我々の存在が進化論やメンデルリズム等の證明する様に進化したものだ云ふ常識を持たれて居られても、日々の我々の直面する現象を結びつけてお考へになる方は少いのではないかと思ひます。殊に十ヶ月の妊娠期間の生長経路が、過去何萬年に經過した進歩の過程を通過して來てゐるのだ云ふ事は忘れられ勝ちの事柄です。我々の發生が卵である單細胞の生活に始まつて、細胞分裂に出立し、その誕生にまで至る経過が過去の進化を辿るゝすれば、誕生してからの發育生育の状態に於ても過去を全く切り離された別のものだまは考へられない筈です。即ち誕生してから一日の生長の中にも過去の力はこの生長を支配してゐる云つてよいので有ります。例へば哺乳類中で猿類が他の動物より進化した云ふのは、たゞ「手」の進化による事だ云はれてゐます。「手」の進化即ち、前肢でものを「握る」事が出来る様になつた云ふこゝです。このこゝは敵を倒し、敵から自分を守るに役立ち、如何に進化の過程を進め

たかみ云ふこゝになるのです。

乳幼児の生活と原人の生活

ミスの様に考へた時に、我々の嬰兒がミスの様な状態で生れ、發育してゐるかを考へてみませう。先づ第一に手を握り、後肢を動かす本態的運動を持つて生れて來ます。それから手の運動ミ口に物を運ぶ本態的欲求によつて、種々の體驗を得る事物に對する判斷力を増加し、種々の智力を養成して行きます。例へば赤ちやんが持たされたおもちゃを偶然「落した」こゝから自分が意識して「落す」こゝ云ふこゝを憶へ、それから「投げる」こゝを憶える様になるこゝはよく御覽になるこゝでせう。さあそれミ我々の先祖ミが如何關係があるかミ云ふこゝも申す迄もないこゝでせう。

皆様の園児はきつミお椅子で、お机でお家を作るでせう。皆様の園児は吐つてもく土いちりを土いちりをなさるでせう。立派なお砂場があつてもよそから土泥を持ちこんでくるでせう。男の兒も女の子も花を見れば取つて來て、用もないのにむしやくつてしまふ場合が多いでせう。トンボを見ればきつミミらうミ努力するでせう。そうして殺して

しまふでせう。喧嘩をしてはいけなさいくらゐ止めても喧嘩はやみますまい。窓の上に登つたり、柱に登りたいミ努力するでせう。女の兒は人形を好むでせう。人形がなければお蒲團を人形の代りに可愛がるでせう。時にはミゼラブルのコゼットの様に劍でも箆でもが人形の代りをするでせう。これらの一切は吐つても如何しても止ぎめきれない現象の種々相です。きつミこれらの事實の連鎖が幼稚園や託兒所の一日くゝの大部分を占めてゐる事ミ思ひます。「あゝ何々さん石を投げてはいけません」「あゝそれそんなに土や砂をまき散らしてはいけません」「窓にあがつて落ちるミ痛くなつて困りますよ」「それお椅子がこはれるではありませんか」ミ云つた様に。

然しそれは毎日くゝ繰返されたるこゝであり乍ら、如何しても止められない毎日の事件です。何故これらの事々が先生方の頭痛の種であり、毎日くゝ吐つても吐つても止められないでいつもくゝ幼児の世界を支配するのでせう。よく先生方やお母様方は斯うした言葉を仰云ひます。無意識に、「ほんさうに子供のしたいこゝをさしてやりたい

「さ思ひます」。さ。然し無理解の自由程恐しいものはないさ
申添へたいさ思ひます。子供達の欲求するものは何のため
に。何故それがあるかさ云ふ真底を考へない場合は極めて
危険です。即ち生長しつゝある乳幼児の頭腦や身體は我々
大人が持つ頭腦や身體さは大小の相違でなく内容形態の上
から異つて、進化の過程にあつた前人の形態を想像される
のであります。従つてその時々には現はれてくる止むに止ま
れぬ本能的衝動は過去の力にあるのださ申しても過言では
ないのであります。丁度進化の過程にある、即ち發育しつ
つある我々の嬰兒や幼児の上に心理的に又肉體的の運動さ
して現はれてくるのも當然な事であるのであります。少く
さも現在の人間は過去に於て勝れたものが適者生存の結果
さして残した血——遺傳の集結でありますから、現在のこ
の我々の血は當然過去に約束つけられてゐるさ云つてよい
のであります。

然らばその生活をどうするか

それですから子供達が喧嘩をするさか、其他の行動はた
だ無意味に否定さるべきものではなく、寧ろ場合に於ては

獎勵さるべき事實であるのであります。何故さ申しまして
過去に於てそれが勝れてゐたために勝者であつたものが現
在の我々をもたらしたのでありますから、將來をよく導く
上にも必ずその必要さがあるのであります。將來のために
よりよくその天分を指導する必要があるのであります。

然しそれがよいのであるからさ云つて喧嘩をしなさい。
棒で打ちなさい。石を投げなさいでは其處に教育さ云ふも
のになくなつてしまふのであります。如何にして子供達の
求むるものを與へ、子供達の心を引延すかさ云ふこゝが大
事になるのであります。其處に教育の重大性があるわけ
であります。教育は現在日々のためにされるばかりでなく
て、人間一生に何を與へるかさ云ふこゝにあるのでありま
すから近視眼的努力はお互に避けなければなりません。が
さて子供が「打つ」さ云ふ興味、「争ふ」さ云ふ興味、即ち闘
技欲さ云はれる行動も狩獵心理さ云はれるこゝによる行動
も、其他の本能的行動も、たゞ現實の問題さしては否定す
べきだから禁止するさ云ふ様な方法が實際問題さして行は
れ易いのであります。例へば椅子や机でおうちをつくる子

供達に、椅子や机が壊れるからいけないと云つて禁止する代りに、何故に丸太や木片を與へないのでせうか。金鋸で釘を打つてもかまはぬやうな大きな板や角材や丸太を與へないのでせうか。一組二百圓だ三百圓だとか云ふ何式の積木

と云つたものも勿論結構には違ひないことですが、併しこんなに充分に經費をかけられてゐる幼児もおそらく木を切る楽しみも釘を打つ楽しみも味へないでせう。それにはかかる積木の他に丸太でも角材でも板でもを充分に具へる事がよりよいことではありますまいか。又方形を要するときは蜜柑や林檎の空箱を澤山に與へても立派な積木として子供達を楽しませることが出来ます。そしてこれらの空箱はやがてメチャクに壊されて子供に破壊欲を充分満足させて期かに喜ばせることが出来ます。方々の幼稚園や託児所であのジングルゲームがひさり淋しさうにポツチンにしてゐるのを見ます。あれはよい運動具に違ひない。子供達の悦ぶ多分の分子を持つてゐるのに何故鈴なりになる程利用されないのか。餘りに先生方の御注意が行き届き過ぎるのミ、家庭や幼稚園が子供を臆病に育て過ぎたのではな

いでせうか。子供自身が持つてゐる本能的な大事な芽を萎縮させてしまつた結果であること云つてよいのではないでせうか。

大分餘論に涉りましたが元へ戻つて、そんなら本能的に現はれて来る種々な現象を如何云ふ風に整理するか云ふ事になる前に申しました椅子や机の場合と同様に、その弊害を除去したものを與へること云ふ事が必要になります。石を投げる子にはまりなげを、喧嘩好の子にはお角力やふざけっこ。窓や柱に登る子供にはおすべりや木登やジングルゲームを。メンコをして困る子供にはふざけっこや軍艦遊戯を。

何故私は前述の例を挙げたのでせう。空腹を抱へてお菓子をはしがつてゐる子供達に玩具を與へても、それは子供達に満足を與へるものではありません。空腹と云ふ現實に對しては御飯を與へるかお菓子を與へるか、にあるのであります。又渴してゐるものにバンや菓子と與へるのも愚な話でせう。其處です。身體の内に活力が旺盛になつて、喧嘩をしたり走り廻つてゐなければならぬ衝動にかられてゐる

る子供達に静かな仕事に従事しなさい云つた處でそれは

飢えてゐるものに玩具を與へ、渴してゐるものにパン菓子
を與へるのに等しい愚の骨頂に過ぎないのであります。そ
うしてその子は先生の云ふ事を聞かない子供、親の云ひつ
けの守れない子供だ云ふのでは、あまりに子供が可愛想
な場合が出來ます。斯うした場合にはこの旺盛な衝動を満
足さしてから静な仕事をさせてこそ満足な結果を得るので
す。又我々の場合でも今日は幼稚園や託兒所から定つた時
間に歸つて映畫を見に行かふとお腹の中で考へてゐる時、
園長さんに今晚は少し用事が出來ましたから残つてこゝを
整理して下さい云はれたら、子供でなくても一寸「ハイ」
と心よく承知出來るものではありません。然し園長さんが
氣の毒だが今日は残つて母の會の方々を音樂會に行つて
くれませんか云はれた場合、映畫を音樂會は少し傾向
が違ひますが、先づ先刻とは違つて心よく引受けられるで
せう。その氣持、心理を子供に應用すればよいのです。子
供の欲求の原因さへ見透し出來れば、それと同様の結果に
なるものを備へることが出來、子供は満足するものであり

ます。

即ち子供ご自分の欲求する種々相を自分の狭い生活範圍
ご低度の智識にあてはめて考へ、遊びに致しますから、
その生活環境によつては善意に行はれる「遊び」も決して
よい遊びだとは云へない場合を生じて來ます。ですからそ
の生活範圍ご智力の範圍を如何に指導し、育てるかによつ
て教室教育より幾倍の効果も擧げ得るのであります。繰返
して申しますが象の足や尾をふりまはして「これが象だ」
云つたり、よい粉を作るのに水の研究にまで進まれない様
に象總體を見て子供に接して下さい。

一錢玩具に就いてそれから玩具に就いて述べさせていた
できます。私が玩具に就いて研究を始めたのも次の様な問
題から起つたのであります。

即ち私の子供時代も、心おぼえに記憶してゐる兄達の子
供時代にも、また現在自分が大人になつてしまつてからも、
あさから來る子供もあさから來る子供も、その繰返して行
くご遊びの過程が同様に云ふ事に疑問を持つたからで
す。メンコであり、シホリであり、ベイゴマであり、ムキ

であり云つた様な玩具がどんな迫害に會つても止め切れないで賣られ、又遊ばれてゐる云ふ事實ミ、それらの玩具に何の進歩の跡も認められない云ふ事實からであります。それは何故か云ふことが私の心を笞打つたのであります。

幼い時の事を想ひ出します。又男の子であつたならキツト一度や二度その體驗をお持ちの事だと思ひます。それは一生懸命ベイゴマやメンコをやつて大いに勝つて大よろこびで家に歸つて来るミ、お母さんやお父さんに發見され「お前はメンコをしてゐるのか」ミ叱られて、大事のくメンコを焼けてしまつたり、捨てられてしまつた事を。それからそつミメンコやベイゴマをしても發見されない様に縁の下にかくしておいたり、穴を掘つて埋めておいて知らぬ顔して家に歸つてゐたりした事を。それ程力強く私共を引きつけた玩具に就いて私も考へずにはゐられなかつたのです。それで先づ私も子供達はどんな玩具を欲求するかを調べて見様、それからどんな風にして遊ぶかを調べて見様と思ひついたのです。

それから先づ子供の欲求は子供のお小遣で買へる玩具ミ云ふ事を題目にして集めました。

その結果を大きく分類してみますミ

一、ギャンプリングに類するもの

例へばメンコ、ベイ、ムキ、シホリ、ペーパー等

二、前項ミ其他の使用法を兼ねたもの

石けり、ラムチダマ、オハジキ等

三、ゲームもの

軍人將棋 軍人合せ 動物合せ 家族合せ

四、ゲームミ運動を兼ねたもの

紐類 ヒモ ゴム紐類 石ケリ等

五、本能的欲求ミ時代色ミを併合したもの

刀、劍、鐵砲、其他爆彈、ピストル等

六、おもむきミ道具

七、お人形遊び

お人形及び切ぬき、千代紙

八、裝飾具

指輪、髮飾、頸輪、香水、金齒、目鏡、ツケビケ、名刺

九、生活環境からの模倣を主としたもの

銀行ごつこの道具、郵便ごつこの道具、學校ごつこ及び

文房具

十、音響を主としたもの

十一、動くこみに興味を感じるもの

以上大體十一種の大分類がある云つてよいのであります。勿論この外に是等に屬さない小さなものゝあるのは勿論ですが、これも先づ問題外として以上の分類に就いて述べて行きませう。

ギャンブリング類

先づ第一のギャンブリングに屬するものから申して参りませう。これは勿論説明するまでもなく、メンコだまかしほりだまかベイだまか云ふものは昨日今日に作られた玩具ではなく、少くも何百年から何十年の歴史を持つてゐるものだま云つてよいので有ります。それ程幾多の人間の心の隅に巢喰つて居たおもちやであるこみに間違ひがなく、それが子供達に年々歳々使用されてゐたのに何故に玩具そのものに進化がなく、又すたりもしなかつたのかま申す

こ、玩具そのものゝ進化は「面形」を稱せられた土燒のものが紙製の「面子」になつた外「鉛面」が出来ても問題にならなかつたのであります。

又しほりは專賣前の煙草の競争時代に煙草の箱の中に入られたカードに出立してゐる様であります。この場合のこのゲームはシタバリを申した筈です。煙草の專賣と同時にこんごはメンコを云ふ悪い觀念をカモフラージュして學用品のしほり云ふ名目で商品化して發賣されたま云ふ事になる様に記憶してをります。

御承知の通り「メンコ」のゲーム方法には色々のゲーム法のある事は申す迄ありません。即ち形態としては餘り進歩しなかつたが子供は自分達の欲求に應じて、子供達の生活經驗からゲーム方法に變化を求めたのであります。

次にベイ獨樂を稱する鐵の小形の獨樂ですが、江戸時代からある處の獨樂で其の始めはベイを稱する貝に端を發してゐるのであります。之も形態としては些も進歩の跡を見出しませんが、ゲームの方法から申しますと前者同様幾多の種類を持ち、中には立派なトバク的方法さへあるものであ

ります。殊に昨年神奈川県下にあつた事實としての児童の殺人事件を起す程、児童達を犯的にするものであります。

大人が競馬やバクチに夢中になる様に、何故に子供達は狂的になる迄これらの三のゲームを好むに至るか云ふその原因に就いて究明して見ませう。この三種の玩具に通有性があるのであります。それは「敵を倒す」云ふこと、相手を征服して勝者となることで、これは精神的な闘技欲と見るのが當然であります。その證明としてはこの玩具が使用され流行して行く傾向を見るに明白になるのですが、この玩具の商品として賣行のよいのは季節としては冬、夏の兩期で共に日蔭、或は日當りのよい處とする傾向があるので、この兩時期には運動によつて殊に闘技欲の満足が充たれない時であります。然し近時東京ではまた異つた傾向が生じてきました。それは交通の煩鎖その他の爲に子供達の運動を阻止する結果、子供達は自分の心の中に燃える焔をこのゲームに向けて、即ち精神的闘技欲によつて満足さうとするこゝが多くなつたのであります。それですから近頃の市内等では絶間のない云ふ程にも思へるので

あります。今申上げた様な心理によつて行はれるだけのゲームならば問題はないのであります。敵に勝つことは征服を意味し、征服は征服で相手を取つてしまふ云ふのになり、敵を取る事だけに止まるならば其處に問題が起つても少いのですが、二ヶ取、三ヶ取、天下取になつて一獲千金を目當にゲームを進めるに至つては、この第二義的發展によつて玩具そのものゝ根本が破壊されてしまふのであります。そうして「敵を倒す」が目的のゲームが、「相手の所有を取り上げる」事が主になつてしまつてはこのゲームを非難しないわけには参りません。然しこの二つの重大な心理、即ち第一義的な闘技欲と第二義的な蒐集欲との變形的結合は根強さを持つて子供達の中に食入るのです。何故に申しますならば、前述の通りの本能的欲求であるからに申すより外はありません。この二つの欲求は人類の進化に功獻しました。併しこの二つの心理の私生兒的結合に對して迄、我々は効果があつたことは申されません。そこでこの二つの心理を分離して考へなければなりません。ですからこの二つを分けるに就いてはこのゲームの根本をなす第一義の欲求を

先づ取上げて指導し、第二義的要求は之を變形して與へるこゝみによつて弊害を少くするこゝみが出来るのであります。

即ちこの玩具の生命も云ふ敵を征服するこゝみ云ふこゝみに就いては、ゲームの約束として子供達の世界にあるものゝままでよいのですが、第二義的欲求の、勝つたら相手のメンコを取つてしまふこゝみに問題を生じてくるのですから、この「取る」こゝみ云ふ約束の代りに譽心を置きかへて、「征服」に對しての代償として與へたならば十分目的を達し得られるのであります。即ち番附をつくつて横綱だとか大關だとか云ふのも一方法でせうし、又トーナメントの形で誰が選手だとか云つてもよいでせう。又現代の野球熱を利用して早稻田だとか、慶應だとか云つてもよいでせう。この様にして玩具から子供の欲求するものは何か云ふこゝみも分析してよりよい指導を與へるこゝみが必要であるのですが、唯單にメンコやペイのゲームの結果である品物のやり取りにのみ神經質になつて、そのゲームの本質を忘却して禁止するこゝみ云ふのはよく見られる圖であります。この様な場合には私達の幼時の想出で申上げた様な結果となり、禁止し

ても禁止し切れない結果となります。又若しかうしたゲームさへ好ましくないので全然止さしてはうゝ考へるならば、闘技欲の變形、即ち精神的闘技欲の代りに肉體的闘技欲を與へれば、このゲームを中止させ得るのであります。

ペーパー

之はマッチのペーパーやレットルの蒐集が大人の世界で流行し始めるこゝ必ず玩具として賣られ出すのですが、子供は之を蒐集欲の對象としてこれを見るのでなくて、ギャンブリングの對象として之を取扱ふのであります。即ち積み重ねておいて息でふきかへして取るこゝか、手を合せてその時の風でペーパーを裏返して取るこゝかの方法を用ひるのであります。之になるこゝ「取る」こゝが主になつてきて、敵を征服するために競争するこゝ云ふ行動はなくなつて來るのであります。斯うした大部分を偶然において射幸心をそゝる様なものになるこゝ、一言にして禁止して下さいと申すより外はなくなるのであります。それにこの場合のペーパーならば遊びの世界では低度のものでありますから、心配は少いのですが、次に申しますムキになるこゝ大問題になります。

(つゞく)